

## 大阪大学経営協議会（令和5年度 第4回）議事要旨

日 時 令和6年3月1日（金）13時30分～16時10分

場 所 大阪大学中之島センター 8階大会議室

出席者 西尾総長（議長）

池上、井上ゆかり、井野瀬、金倉、来島、黒田、多田、塚本、出口、豊田、蓮輪、藤井、村木、  
金田、田中敏宏、尾上、福田、田中学、水島、山本、井上恵嗣、竹村、深瀬、熊ノ郷、  
有川 各委員

欠席者 中野 委員

議事に先立ち、西尾議長から会議開催に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。続いて、直近の新聞報道等に関する報告と、研究不正事案の公表について、また、令和6年能登半島地震にかかる本学の対応や、大阪大学感染症総合教育研究拠点（CiDER）シンポジウムご参加への御礼及び本学の若手研究者、学生の受賞等活躍の状況について発言があった。

加えて、前回（令和5年11月13日開催）の議事要旨については、事前に各委員に照会し、内容を確定して本学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

### 議 事

- 1 前回のご意見等に対する取組状況について  
西尾議長から、配付資料に基づき報告があった。
- 2 副学長及び総長参与の指名について  
西尾議長から、配付資料に基づき報告があった。
- 3 本学の英語名称の変更について  
田中学委員から、配付資料に基づき報告があった。  
本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。  
○ 変更後の英語名称を周知する際には、大阪大学ロゴマークについては図法や色番号などが規程により定められていることを併せて周知してはどうか。
- 4 国立大学法人法の一部改正について  
田中敏宏委員から、配付資料に基づき報告があった。
- 5 令和6年度OUアクションプランについて  
金田委員から、配付資料に基づき報告があった。
- 6 令和6年度運営費交付金等について  
福田委員から、配付資料に基づき報告があった。
- 7 令和6年度予算（案）について  
福田委員から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

## 8 令和6年度長期借入金認可申請について

福田委員から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

- 附属病院における収入増加に向けて、いわゆる医療ツーリズムの誘致を検討してはどうか。

## 9 給与等支給日の変更について

水島委員から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

## 10 役員報酬規程の一部改正について

水島委員から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

## 11 今年度を振り返ってのご意見

西尾議長から説明があり、意見交換を行った。また、本協議会学外委員のうち今年度末をもって退任となる池上委員、井野瀬委員、出口委員から、退任に係る挨拶があった。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

- 大阪大学の価値を今後どのように高めていくのか検討いただきたい。また、価値を高めることで多様な財源を確保するというマインドセットのもとで各施策を進めるとともに、現場の教職員からこれに資するアイデアが出てくる環境を作っていたいただきたい。
- 今後10年、20年先のリーダー人材を育成するため、優秀な学生や若手研究者をピックアップのうえ、登用や支援する制度などを設けて後押ししてはどうか。
- リスク事案のうち、特に人権に関わるものについては、必ず総長へ情報が入り、それに対して大学としてどのような対応を行うのか、フィードバックが必要と考える。そのためには、大学としてどのようなことをリスクとして捉えるのか、また、どのように情報共有を図るのか、あらためて全学で統一いただきたい。
- 経営協議会学外委員が、大学のステークホルダーとの接点となる教育研究の現場と関わりを持てる機会を作っていたいただきたい。
- 大阪大学が持つ人文・社会科学における素晴らしい研究成果について、ぜひ資金獲得につなげられるようにしていただきたい。そのために、例えば研究成果を活用した会社設立に係る手続きの簡素化や、研究成果の社会実装を得意とする外部機関との連携について積極的に検討してほしい。
- 執行部がチームとして非常によく機能しているとともに、経営協議会の意見に基づき改革を進めているということが如実に感じられる。学外委員もバックアップするので、引き続き改革を進めていただきたい。
- 研究成果を活用した資金獲得に努めるとともに、大阪大学においてはぜひ基礎科学の維持、進歩にも注力いただきたい。
- スチューデント・ライフサイクルサポートシステムや、めばえ適塾など、大阪大学ならではの取組みにさらに磨きをかけていただきたい。
- 海外大学との提携や留学生の増加を進めるにあたり、国際的なプラットフォームとして大阪大学が持つ価値や特徴を示してはどうか。
- 大阪大学の教育について、より積極的にどのようなことを行っているのかブランディングに努めるとともに、多様なロールモデルを示すようにしていただきたい。
- 博士人材の育成にあたっては、例えばドイツの博士人材は専門知識だけでなくリベラルアーツにも精通しているという意見もあることから、大阪大学においてもリベラルアーツ

ツの習得にも力を入れていただきたい。

- 研究活動を支援する人材と同様に、教育活動を支援する人材の充実についても検討いただきたい。
- 資金の獲得と、獲得した資金をどのように教育研究活動に投下していくのか、また、これによって他大学とどのように差別化を図るのかということについて、部局のマネージャーに意識付けをすることでマスタープランの実現性がさらに高まるのではないかと。
- 自立的な大学経営に向けて、大阪大学には産学共創活動や新しいアイデアの創出について先頭に立って進めていただきたい。
- 大学という組織は大きな改革を行いにくい体制になっているように思うが、例えば新しい組織を作るときにはスクラップ・アンド・ビルドで行うなど、大阪大学が目指す方向に向けた改革が現場の実態にまで及ぶように改革のモデルを構築していただきたい。
- 教育研究活動、地域社会との共生や共創活動、さらには経営など、大学に求められる機能が拡充している中であっては、事務部門が非常に大切な役割を担うことになるので、事務職員においては、いずれの業務分野にあっても専門的なプロの仕事が求められるとともに、一つの組織として有機的に機能するというミッションが課せられていると捉え、チャレンジングに活動していただきたい。
- 企業ではジョブ型雇用やメンバーシップ型雇用の議論が行われているが、いずれの場合にあっても自身のキャリアを自身でマネジメントしないといけないとされており、大学においても例えば研究者が自身のキャリアパスを検討するためのベースとなる情報の提供や、キャリアを実現するための環境作りに努めていただきたい。
- 新領域の研究活動は大阪大学が得意とする分野だと思うので、ぜひこの分野の第一線で日本の他大学を引っ張って行っていただきたい。
- 大阪大学はこれまで様々な企業との産学共創活動を行い、その成果は非常に素晴らしい。今後はさらにここにダイバーシティ&インクルージョンの視点を加えていただきたい。特に市民社会などを巻き込み共創活動を可視化させると理想の形になるのではないかと。
- 今後もマルチなタレントを持つ学生を育てる大学として、ダイバーシティ&インクルージョンの模範になるような大学として、そしてグローバルな社会でもローカルなコミュニティでもリーダーシップを発揮する大学として、ますますの発展を祈念している。
- 人文・社会科学系分野の博士課程進学者や研究者を増やすために、大阪大学にはこれを支える役割を担っていただきたい。
- 大学を取り巻く環境や大学自体が大きく変わる中、人材育成を進めるにあたっては人間力の涵養という基本に立ち戻る必要があると考える。
- 若手研究者の育成にあたり、研究者の伸びやかな活動を大学としてサポートいただきたい。
- 大学という場の生命線は対話であり、議論である。本経営協議会においては委員が自由に意見を述べられる雰囲気を西尾議長が作ってくれたが、大学として今後も対話と議論を続けていただくようお願いしたい。

## 【その他】

### 1 経営協議会委員の交代について

西尾議長から、配付資料に基づき令和6年度からの委員について報告があった。本協議会学内委員のうち3月末をもって退任となる竹村委員、深瀬委員から退任に係る挨拶があった。

(以 上)